

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

97

2022. 10. 31

兵庫JCCは兵庫県内の生協、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。

「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指してー協同が息づくまちづくりー」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 2
『春いちばん』賀川豊彦の妻ハルのはるかな旅路 発刊… 2
3. 第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会
兵庫JCC宣言 3
4. 協同組合間連携に向けて役員らが対話
ー協同組合間連携セミナーを初開催ー 4

Contents

5. ひょうごまるごと健康チャレンジ2022 5
6. 今協同組合ではー各協同組合からの報告ー
JA(農協)／生協 6
JForest(森林組合)／JF(漁協) 7
7. 協同組合運動に生きる
兵庫県漁業協同組合連合会 西詰 宗弘 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

ピースアクション2022[第1弾]映画上映会 開催



生協

「ヒロシマへの誓い～サーロー節子とともに～」映画上映会を9月15日に県民会館で開催しました。サーロー節子さんを4年間にわたって密着取材した本作のプロデューサーで被爆2世である竹内道さん(ニューヨーク在住)がオンライン(Zoom)で挨拶、「ぜひ皆さんひとりひとりが平和な世界に向けての行動を起こしてほしい」と話されました。

私の米(マイ)メモリーコンテスト開催



JA(農協)

JA兵庫中央会では、「私の米(マイ)メモリーコンテスト」を開催しています。Instagramに料理の写真や料理を作ったり食べたりしている様子の写真・動画を投稿してもらうもので、おこめギフト券5,000円分が15名様に当たります。期限は11月30日までです。詳細はJA兵庫中央会のInstagramアカウント(@ja_hyogo)をフォローしてください。

オンライン料理教室を開催



JF(漁協)

ご自宅で受講できるオンライン料理教室を開催しました。アジの三枚おろしに挑戦するといった難易度の高い内容でしたが、県内だけでなく他県からの参加者もあり、兵庫県の魚を使った料理を楽しんでいただきました。

最新のIT技術で森林の境界を確定



JForest(森林組合)

これまで地籍調査では森林所有者が現地で直接、自分の森林境界を確認していましたが、今年度から市川町では、原則として現地に行かず、航空レーザー測量の結果を用いて森林境界を確定する新しい試みを始めました。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫 JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・JF(漁協)・JForest(森林組合)

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、世界の協同組合の仲間が心をつなげて、協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために協同組合運動の前進を誓い合う日です。

兵庫 JCC は7月1日、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓（ひら）く」をテーマに、第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。ライブ配信と実参加を併用し、感染防止対策の上で実施しました。県内の生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）の組合員や役職員234人（会場184人、オンライン50人）が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県漁業協同組合連合会の田沼政男代表理事会長があいさつ。来賓である兵庫県の服部洋平副知事、神戸市経済観光局の安岡正雄農政担当局長、一般社団法人日本協同組合連携機構の比嘉政浩代表理事専務からごあいさつをいただきました。

最後に、生活クラブ生活協同組合都市生活の小谷里香理事長が、「第100回国際協同組合デー・兵庫 JCC 宣言」を力強く読み上げ、満場一致で採択されました。

第2部では、作家の玉岡かおる氏を迎え、「賀川ハル～豊彦の妻として、同志として～」と題して記念講演が行われました。賀川ハルが豊彦を支えた活動、女性運動家としての生涯について、わかりやすくお話しいただきました。

また、同時に賀川ハル召天40周年を記念した特別展を開催しました。



賀川ハル特別展を実施



主催者あいさつをする
兵庫県漁業協同組合連合会の
田沼政男代表理事会長



兵庫 JCC 宣言を読み上げる
生活クラブ生活協同組合都市生活の
小谷里香理事長

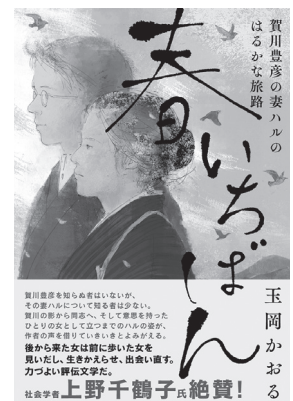


記念講演をする作家の玉岡かおる氏

『春いちばん』

賀川豊彦の妻ハルのはるかな旅路 発刊

今回の国際協同組合デー・兵庫県記念大会でご講演いただいた玉岡かおる氏が、雑誌『家の光』2019年5月号から3年間連載した同タイトルの小説が10月19日、単行本で発行されました。賀川豊彦の同志として、さまざまな社会問題と闘ったハルの知られざる波瀾万丈の生涯が描かれています。



第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言

本日、第100回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催し、兵庫県内の生協、農協、漁協、森林組合の協同組合関係者が一堂に会し、心ひとつに協同組合運動のさらなる発展を誓う日を迎えました。

国際協同組合同盟（ICA）は、第100回国際協同組合デーのスローガンを「協同組合はよりよい社会を築きます」としました。世界の平和と安全が脅かされつつある今こそ、人と人が心から結びつき困難を乗り越えて行くことのできる協同組合の価値を発揮するときではないでしょうか。

ロシア軍によるウクライナ武力侵攻は多くの無辜（むこ）の市民を巻き込む侵略行為であり断じて容認できません。兵庫 JCC は、世界が一致して対話と外交による解決をはかり、一刻も早くウクライナの人々に平穏な暮らしが取り戻されることを心より願います。

国内では新型コロナウイルス感染症の発生から2年以上がたちましたが、未だ予断を許さない状況が続いています。長引くコロナ禍の影響に加えて不安定な国際情勢が追い打ちをかけ、食料をはじめ原油や生産資材の価格が高騰し、物価の上昇や農林水産業への深刻な打撃をもたらしています。

私たちを取り巻く環境問題も深刻さを増しています。地球温暖化の進行が巨大台風や豪雨災害など異常気象の要因と言われ、人間が自然環境や生態系を損ない続けてきた報いを受けているかのようにも感じられます。次の世代に美しい地球を引き継ぐために、協同の力で何ができるのか考え実践していかなければなりません。

兵庫 JCC においては、協同組合の父と呼ばれる賀川豊彦の理念を共有するそれぞれの団体が互いに連携して、兵庫の豊かな環境を守るため、生産と消費のつながりを大切にしたエシカル消費の推進や、様々な地域課題の解決に貢献する協同組合人の育成に取り組んでいます。また、日本協同組合連携機構（JCA）を通して全国の事例を学びながら、さらなる連携強化に取り組んでいます。

私たち兵庫 JCC は、国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、協同組合がその重要な担い手の一つであることをあらためて認識し、ともに力を尽くし貢献することをここに宣言します。

2022年7月1日

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）

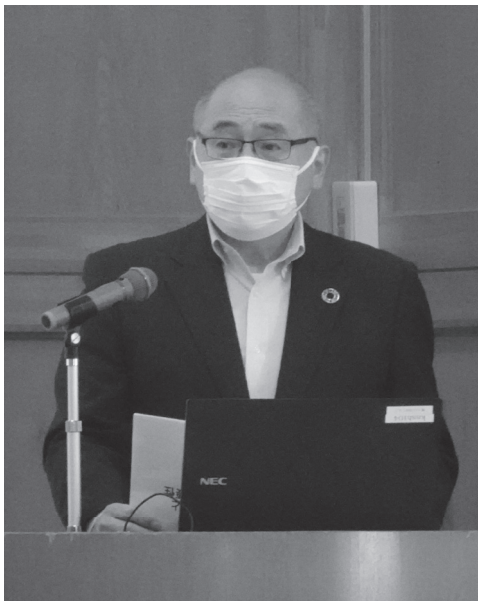
協同組合間連携に向けて役員ら対話 —協同組合間連携セミナーを初開催—

兵庫 JCC は 9 月 26 日、地域社会の課題に協同組合が連携して対応できることを探るため協同組合間連携セミナーを開催しました。これまで兵庫 JCC では職員を対象とした虹の仲間づくりカレッジを行ってきましたが、連携を進めるには役員の関係強化が必要であると考え、常勤役員を対象に初めて開催しました。三木市のコープこうべ協同学苑に関係者 19 人が参加し、それぞれの組織の取組みを理解し、連携に向けて対話を続けることを確認しました。

セミナーでは一般社団法人日本協同組合連携機構の比嘉政浩代表理事専務が「協同組合を巡る情勢と協同組合間連携の必要性」と題し講演しました。援農ボランティアや高齢者の生活支援など、全国の協同組合間連携の事例を紹介し、地域課題を共有したうえで、「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」をキーワードに始めることを提案しました。

また、兵庫 JCC の江見淳幹事（県生協連専務理事）が、国際協同組合デー・兵庫県記念大会の開催や事業・活動の相互理解を深めるための協同組合研究・交流会の実施、さらに、職員が交流し、共通する社会課題について学び合い、課題解決のために実践する虹の仲間づくりカレッジに取り組んでいることを報告しました。

参加者はグループに分かれて意見交換を行い、「同じ目的をもって一緒に取り組めるきっかけができた」「定期的にこうした研修や交流の機会を設けたい」など、協同組合間連携の可能性を確認しました。



講演する日本協同組合連携機構の比嘉専務



活発に意見交換をする参加者

ひょうごまるごと健康チャレンジ2022

兵庫県内の医療生協が独自に取り組みをすすめてきた「健康チャレンジ」。2018年度から県内の生協や協同組合が一緒になって取り組む「ひょうごまるごと健康チャレンジ」として実施しています。「心と身体の健康習慣づくり」を後押しする取り組みとして、行政や諸団体等との連携を通して、県民の健康づくりにつなげています。

実施期間は、2022年7月20日～11月30日。期間中、目標を決めて30回（連続して30回でなくてもOK!）取り組み、終了後は「結果報告はがき」かWEBで報告してください。報告者の中から抽選でJTBギフト券が当たります。



たとえば…



【A 運動コース】

いつもより
1000歩多く歩こう



1日1回
ラジオ体操をしよう



キッズに
おすすめの
イラスト

【B 生活習慣コース】

あいうべ体操



自分流
生活習慣コース



キッズに
おすすめの
イラスト

【C リフレッシュコース】

適度な睡眠



地域の活動
(趣味・ボランティア)に参加



キッズに
おすすめの
イラスト

【D 食事コース】

一口30回噛もう



間食はしない



キッズに
おすすめの
イラスト

詳しくはこちらから ⇒

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/activity/?cat=10>



WEBでの結果報告はこちらから ⇒

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/health/mail.html>



達成報告された方の感想が続々寄せられています。

- ・毎日続けることで体が軽くなった気がします。
- ・チャレンジすることで「目標」を作る大切さを改めて学びました。
- ・マイチャレンジカレンダーをつけることで続けていく励みとなりました。
- ・コロナ禍、目標を決めて達成できた時の喜びは今まで以上に大きなものでした。これからも続けていきます。

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

日本の「食」と「農」を支え、未来につなぐ「国消国産」

コロナ禍において、いくつかの国が食料の輸出を制限しましたが、それらの国から日本は食料を多く輸入していなかったため大きな影響は出ませんでした。その後、ロシアのウクライナ侵攻に伴い、穀物価格だけでなく様々な食品の値段が上昇しました。世界規模の問題が発生したとき、私たちの食料はどうなるのでしょうか。私たちにとって大きな教訓となっています。

全ての食料を国内で生産することは現実的ではありませんが、国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する「国消国産」という考え方を、多くの人に理解してもらうため、JAグループは活動をしています。

現在、日本の食料自給率はカロリーベースで38%と低水準になっています。農業生産基盤の弱体化、日本を含む世界規模での自然災害の発生、世界の人口増加による需給逼迫、国際紛争など、私たちの食を取り巻くリスクは年々高まっています。

また、短期間での食料の増産は難しく、一度荒れてしまった農地から農作物を収穫するには、土づくりや水の管理、病害虫対策などをあらためて、行う必要があります。

こうした実態や課題を、多くの人にご理解いただき、食料を生産する農業・農村などを支えたいと思っただけの方々が一人でも多く増えることを切に願っています。



国消国産を訴えるポスター

生協から

新しい気持ちでコロナ禍の活動にチャレンジ

阪神医療生活協同組合では2020年3月1日から全てのグループ活動を中止していました。人と会わない、近くで話さない、一緒に食事しない…。仕方がない反面、まさしく生活協同組合が大切にしてきた人と人とのつながりづくりと真逆の方針と言えるものでした。組合員と一緒に「本当にこれで良いのだろうか」「何か出来ることはないか」と相談をし、徐々にラジオ体操やウォーキングなど屋外で行う活動を開始しました。2022年4月には合計12ヶ所で定期的を開催することができ、4～6月にかけては、“おうちで健康チャレンジ”も実施しました。



ラジオ体操の様子

収束と拡大を繰り返す中「こんなものに負けてられるか〜!」という気持ちで、遠足や屋外ゲーム大会、ドッジボール大会やハロウィンパーティー、青空健康チェックなどを開催、花見、バス旅行なども例年とは異なる新しい気持ちでチャレンジしています。



感染予防対策を徹底して開催

もちろん取り組みをやるべきでないという意見の方もいます。意見はそれぞれあるので、正解・不正解を問うものではなく「強要せず、希望される方が無理せず参加できるように」ということを期間中の全ての活動の方針としています。

コロナ後の社会、私たちはこの経験から何を残し、何を大切に生活していくのでしょうか。選択肢が増え、より多くの方が幸せになることを願います。その選択肢の一つとして、人と人の「温もり」や「温かみ」が感じられるリアルで優しい場を、これからも協同の力で求め続けたいと改めて感じています。

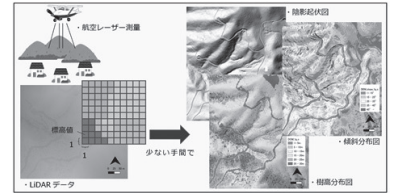
JForest(森林組合)から

スマート林業～ GIS の利活用～

兵庫県森林組合連合会では、ICTを活用したスマート林業に取り組んでいます。スマート林業とは GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) やドローン等 ICT の先端技術を活用し、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた木材生産を可能とする林業です。

特に GIS では、面積や距離の計算・分析が簡単に出来るだけでなく、官民さまざまな機関からインターネットを介して提供されるデータ (地図コンテンツ) が充実しています。このため、これまで紙で管理していた様々な地図情報を各々のパソコンで管理することができるようになりました。しかも兵庫県では、平米1点の航空レーザー測量の結果 (LiDAR データ) を一般公開しています。このデータを活用すれば、高精度な陰影起伏図や傾斜図、樹高図といった各種主要図を作成することができます。また、これらの図面は手軽にスマートフォンに取り込むことができるため、GPS を使えば、携帯電波が圏外の山林内でも図面上に自分の現在地を簡単に表示することが可能で、様々な調査に大いに役立ちます。

こういった精度の高い情報が付された図面を用いることは、机上での計画と現場との差異をより小さくできるだけでなく、現地調査にかかる日数や人員を大幅に減らすことが可能となり、経費や労災を減らすことにもつながります。今後も当連合会ではこうした ICT を活用した技術を推進し、兵庫県の森林の利活用に取り組んでいきます。



航空レーザー測量の結果を解析した図面(例)



現場で GPS を使って位置確認

JF(漁協)から

マリンスクールを開催

コープこうべ・JF 神戸市・JF 兵庫漁連は、協同組合間連携事業として「マリンスクール」を、7月に JF 神戸市で、8月には兵庫県水産会館にて開催しました。

参加された親子 (約 140 人) は、「セリ市」の見学や「魚のつかみ取り」「タコのぬめりとり」「ヒラメの稚魚の放流」「干しダコ作り」などを体験したほか、「兵庫の漁業と環境のつながり」についても学習しました。

このような活動を通して、兵庫の海を知ってもらい、多くの人に水産物の魅力を身近に感じてもらえるよう、今後とも魚食普及活動に取り組んでまいります。

一方、8月20日に県立明石公園内の県立図書館夏祭りで、「おさかなカンバッチづくり」& 「おさかなクイズ」を実施しました。

「おさかなカンバッチ工房」では、魚のイラストに自由に色塗りをしてもらい、カンバッチに加工し、「ひょうごの魚屋さん」では、発泡スチロールで作った、切り身と尾頭付きの魚を使い、魚の名前を当てるクイズを出題しました。

先着 100 名限定で用意していた大会タオルが午前中に配布終了する等、会場は大盛況でした。

午後には、県立図書館の職員と共に、「ため池マン体操」の動画収録にも参加。全国豊かな海づくり大会法被を着て、子ども達と元気よく踊りました。



魚のつかみ取り



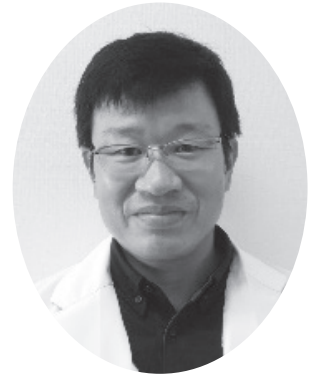
干しダコ作り



おさかなカンバッチづくり

協同組合運動 に生きる

「虹の仲間づくりカレッジ」の 思い出



兵庫県漁業協同組合連合会 品質管理室 室長 **西詰 宗弘**

私は1997年に兵庫県漁業協同組合連合会に入会し、これまで様々な部署で業務にあたってきました。そうしたなか、今から7年前の2015年に、兵庫JCC主催の第一回目となる「虹の仲間づくりカレッジセミナー」に参加する機会を得ました。

このカレッジは、第1回目ということで50人くらいの参加者があったと記憶しています。講演のほか、たつの市の醤油工場での見学や、三木市内で行われた森林の除伐を行う「虹の仲間森づくり」に参加したり、複数の班に分かれ、県内産特産品の販売を行ったりと多彩な内容であったほか、研修終了後の懇親会が大いに盛り上がり、沢山のひととの出会いもあり、毎回参加することが楽しかったことを覚えています。

この活動の中では、複数の班に分かれ、何度も意見を交わし発表する場がありました。私たちはその課題に対し、それぞれが所属している組織での業務で得た経験や内容から、意見を述べるのですが、それを聞いていると、初めて聞くことなのに何故か共感する部分があったり、自分も似たことを考えたことがあったりと共感する部分が多く、もしかしたら他の参加者も同じように感じていたのではないかと思う場面もありました。後から思えば、協同組合という組織に身を置く者が、「人」に力点を置いた考え方で、「人」への行動を実践していくという、共通の考えを持つことから来るものではないかと思われ、この価値観を共有できる仲間との議論は活発で楽しくもあり、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

それと同時に、自らの考えや体験を語った後、根本に同じ考えを持つ人の意見があまり抵抗なく入ってくると同時に、自らの考えが研ぎ澄まされるような感覚を得ることもありました。

これはあたかも、マニュアルの一眼レフカメラがピントを合わす際に、あえて一旦ピントをぼかすような感じです。ピントを合わそうと、シャッターを切る前に微調整をするのですが、ある程度からは、なかなか合わない。そこで一旦ピントをぼかして、再度合わせなおすとピタッと合う…

つまり、“自分の範疇で物事を考え、実践し行き詰まる。何度も考えたからこそ、答えが見えない。そのような時、根っこの考えを同じくする人が、話を聞いてくれ、自らの経験などに基づいた意見をくれる。そこから、煮詰まった考えが一旦崩れ、再構築された際には強固になり、さらに先に進む。”

そんな、一旦ピントをぼかすタイミングを与えてくれるのが、組織を異にしても考えが同じ「人」なのだと思えたのでした。

このカレッジには、数年後、事務局として運営の手伝いを行う機会がありました。そこでも、やはり何かを作り出そうと活発な意見を出し合う参加者の姿がありました。人と人とが意見を出し合うなか、化学反応を起こすかのように次々とアイデアが出され、形になっていく。その過程は大変だと思えるのですが楽しそうでもありました。もしかしたら、私と同じような感覚になった参加者がいたかもしれません。

「人」が力を合わせる仕組みが協同組合で、その「人」が考え行動することが、人や地域を守っていく時、より広い視野で、より多くの意見で考えを補強する。これが可能なら、現代社会が抱える諸問題も、組織の枠を超えた仲間と協同することで、何らの方策が見えてくると思わせてくれた思い出に残る研修でした。

今年、8回目を迎えるこの研修ですが、これからも続いていくことを期待しています。